

第4章 研究のまとめ

1 研究・実践の成果

(1) 意識調査の結果

【低学年分科会】

令和2年度回答者数:105名(%)

令和3年度回答者数117名(%)

質問項目	そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
① 本をよむことは、たのしいですか。【読書】	68	27	4	2
② 自分のかんがえや かんそうを 友だちやクラスにつたえることが すき(とくい)ですか。【共有の意識】	38	21	34	7
③ 国語の学しゅうは たのしいですか。または、とくだとかんじますか。【言語活動の充実】	55	35	6	4
④ めあてをもって 学しゅうに とりくむことができますか。【見通し】	44	33	20	3
⑤ きょうかしょを すらすら よむことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	46	33	14	7
⑥ 友だちや先生が はなしているとき、大切なところがどこなのか かんがえながら きいていますか。【聞くこと】	50	36	11	3
⑦ 学しゅうしたことを つかって、自分の好きなことや好きなもののわけ(りゆう)を かいしたり はなしたりすることができますか。【学習の活用】	50	29	16	6
⑧ 「ふりかえり」のじかんで、学しゅうでわかったことをかいしたり はなしたりできますか。【振り返り】	40	35	19	6
⑨ わからないことがあったときに、友だちや先生、お家の人にきいていますか。【分からない時の対応】	67	21	8	5

そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
77	15	6	2
45	33	17	5
↑52	32	13	3
↑63	21	11	5
52	31	9	8
50	36	10	4
47	22	25	6
63	18	10	9

【中学年分科会】

令和2年度回答者数:85名(%)

令和3年度回答者数107名(%)

質問項目	そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
① たくさんの種々の本を読んでいますか。【読書】	46	31	15	8
② 自分の意見や考えを友だちや学級に伝え合うことが好き、または、得意ですか。【共有の意識】	34	33	22	11
③ 国語の学習活動は楽しいですか。または、得意と感じますか。【言語活動の充実】	47	25	20	8
④ 学習がはじまったころに、学習の終わりごろに何をやるのか分かっていますか。【単元の見通し】	40	38	15	7
⑤ めあてをもって学習に取り組むことができますか。【見通し】	51	30	12	8
⑥ 教科書の文章をすらすら読むことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	64	22	8	6
⑦ ひつようなことをメモしたり、しつ問したりして、相手の伝えたいことを考えながら聞いていますか。【聞くこと】	40	37	17	7
⑧ 友だちの意見と自分の意見の同じところやちがうところに気を付けて聞いていますか。【聞くこと】	41	29	23	7
⑨ 自分の考えや意見のよいところに気付いていますか。【考えの形成、共有】	33	35	24	8
⑩ 国語の授業で学習したことを使って、自分の意見を理由や例をあげて説明したり書いたりしていますか。【学習の活用】	40	34	19	7
⑪ 国語の授業で学習したことを使って、自分の意見の話の大切なところが分かるように書いたり話したりしていますか。【学習の活用】	41	35	17	7

そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
47	31	15	7
35	29	16	7
48	36	15	7
42	43	12	3
42	28	9	9
↑54	37	21	10
35	30	18	7
↑49	36	17	8
36	35	19	7
41	37	14	8

⑫	「ふりかえり」で、学習で分かったことや分からなかったことを書いたり話したりしていますか。【振り返り】	34	46	13	7
⑬	分からないことがあったときに、友だちと話し合ったりじ書やじてんを使って調べたりしていますか。 【分からない時の対応】	45	32	15	8

36	39	12	7
40	39	11	10

【高学年分科会】

令和2年度回答者数:81名(%)

令和3年度回答者数70名(%)

質問項目	そうです	ややそう	あまりそうではない	そうではない
① 日頃から進んで読書活動をしていますか。【読書】	35	28	32	5
② 国語の学習は楽しいですか。または、得意と感じますか。 【言語活動の充実】	25	51	21	4
③ 自分の意見や考えを友達や学級で伝え合うことが好き、または、得意ですか。【共有の意識】	27	37	30	6
④ 今の学年になるまでに、国語の学習で学んだ大切なこと分かりますか。【既習事項の認識】	46	44	10	0
⑤ 新しい学習が始まった時、学習の終わりをふまえて次の時間からの計画を立てていますか。【単元の見通し】	22	40	31	7
⑥ めあてをもって学習に取り組むことができますか。 【見通し】	44	30	24	3
⑦ 教科書の文章をすらすら読むことができますか。【読むこと(言葉の理解)】	59	30	10	1
⑧ 目的や意図に応じて、自分の意見と比べながら話し手の話を聞いていますか。【聞くこと】	44	43	12	0
⑨ 事実と人の考え(感想や意見)を区別して、聞いていますか。【聞くこと】	44	40	16	0
⑩ 友達や先生の話等を聞いて、もう一度自分の考えを見直し、よりよい考えにすることができていますか。 【考えの形成、共有】	44	37	16	3
⑪ 国語の授業で学習したことを使って、自分の考えが伝わるように工夫して話したり書いたりできますか。 【学習の活用】	36	38	24	3
⑫ 国語の授業で学習したことを使って、分かったことや考えたことを友達と話し合ったり文章にまとめたりしていますか。【学習の活用】	41	41	19	0
⑬ 「振り返り」で、学習でわかったことや次の時間にやることを書いたり話したりできますか。【振り返り】	38	42	16	4
⑭ 分からないことがあった時、友達と話し合ったり、データや図表、違ふ本等から解決したりしようとしていますか。 【分からないときの対応】	42	42	11	5

そう	ややそう	あまりそうではない	そうではない
↑52	19	19	10
29	44	20	7
19	31		
45	40	13	2
↑35	35	16	14
49	31	13	7
51	30	19	0
41	37	16	6
37	45	11	7
42	39	16	3
37	41	19	3
37	36	22	5
41	39	17	3
39	41	17	3

【研究の成果】

項目		麻布小学校の取組
①	【学習の活用】	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を作成することで、他教科や行事と関連し、国語科で学習したことを活用し、学びを実感できる児童が増えた。 ・タブレット端末を活用し、情報発信できるアプリケーション(Feelnote)を継続的に活用した。 ・学習のゴールを明確化したことで、自分の考えを表現することを見通しながら、学習に取り組む児童が増えた。
②	【単元の見通し】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールの提示(高学年は対話をしながら設定)をすることで、ゴールを意識しながら、毎時間学習できた。 ・学習計画を提示・設定することで、自分の活動を調整しながら活動ができるようになった児童が増えた。
③	【言語活動の充実】	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科年間指導計画の作成により見通しをもって指導することができた。 ・児童が目的意識をもって学習に取り組めるような学習のゴールを設定することができるようになった。(図1)
④	【考えの形成、共有】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習によっては、シンキングツール(図2)で自分の考えを可視化することで、考えを整理することができるようになった。 ・単元の中で、自分の考えを比べたり吟味したりする時間を設けたことで、自分の考えを見直ししながら、他者の意見を聞けるようになってきた。
⑤	【見通し】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、めあてを設定し、児童が見通しをもって学習できるようになった。高学年は、自分の学習のめあてが設定できるようになった。
⑥	【振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、振り返りを継続することで、学習を主体的に進める児童が増えた。 ・めあてに対する振り返り(図3)をすることで、その時間に学んだことを自分の言葉で表現できるようになった。
⑦	【共有の意識】	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的、計画的な「4つの対話」の設定することで、目的をもって話し合い活動に取り組むことが増えた。
⑧	【読むこと】 (言葉の理解)	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中学年は、毎日の音読を継続することで、読みの力が高まった。 ・高学年は、黙読、速読、群読、交代読み等、読み方を変えながら、読む練習をすることで、理解しながら読むことを意識するようになった。
⑩	【聞くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「4つの対話」に意図的・計画的に学習に取り組むことで、目的に沿った伝え合いができるようになってきた。(図4) ・ICT(主にスクールタクト)を活用し、人の意見との違いを意識しながら、伝え合うことができるようになってきた。
⑪	【読書】	<ul style="list-style-type: none"> ・食育と読書活動の連携を図り、絵本に出てくる食べ物を「ブックメニュー」としてまとめ、実際に給食で喫食することで、読書活動への関心が高まった。【Twitter 参照】 ・図書館司書の方と連携し、「麻布おすすめ図書50冊」(低中高各50冊)を作成し、年間を通して、学級文庫や図書室に用意することで、読書への関心が高まった。 ・全校児童が自分のおすすめの本を紹介文にし、「読書の木」(図5)を作成し、玄関に掲示することで、読書の幅が広がった。
⑬	【既習事項の認識】	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の教室内の掲示することで、児童が必要な時に学んだことが活用することができた。(図6)
⑭	【分からないときの対応】	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器(タブレット端末)、辞書、学校図書館の本、他者等、児童が必要な情報によって、手段を選ぶ機会を増やしたことで、児童が自力解決しようという姿に繋がった。



図1【友達との対話】

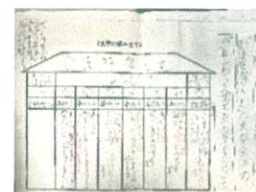


図2【シンキングツール】



図3【振り返り】



図4【教師との対話】



図5【読書の木】



図6【既習事項の掲示】

2 今後の課題

児童への意識調査後、全校の傾向として「【共有の意識】」について、肯定的な意見が少ないことが明らかとなった。特に、高学年の意識は高いと言えない結果であった。このことを踏まえ、全校に対し、「【共有の意識】」に関する追加の調査を行った。結果は以下の通りである。

低学年

令和3年度回答者数114名(%)

		どちらかというとき好き・得意	どちらかというとき苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	63%	37%
②	少ないグループ（2～4人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
③	i Pad（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	70%	30%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	57%	43%

中学年

令和3年度回答者数106名(%)

		どちらかというとき好き・得意	どちらかというとき苦手
①	クラス（全員）の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	59%	41%
②	少ないグループ（2～4人）の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
③	i Pad（スクールタクトなど）を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。（得意ですか。）	75%	25%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	61%	39%

高学年

令和3年度回答者数67名(%)

		どちらかというとき好き・得意	どちらかというとき苦手
①	クラス(全員)の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。(得意ですか。)	34%	66%
②	少ないグループ(2~4人)の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。(得意ですか。)	53%	47%
③	iPad(スクールタクトなど)を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。(得意ですか。)	57%	43%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	33%	67%

全校

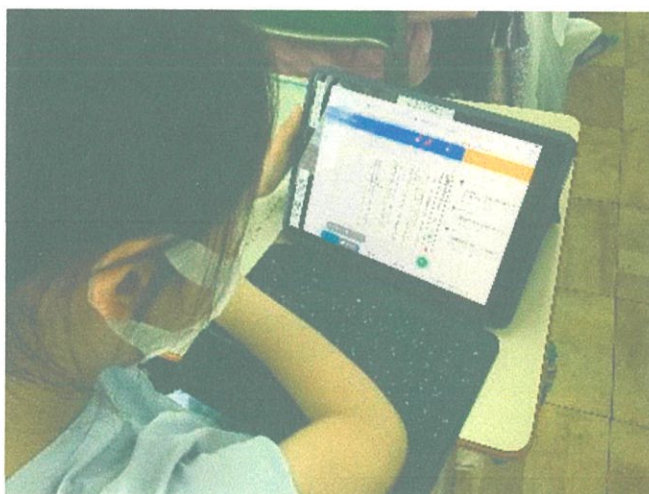
令和3年度回答者数287名(%)

		どちらかというとき好き・得意	どちらかというとき苦手・苦手
①	クラス(全員)の前で、自分の考えや感想を、伝えたり聞いたりすることは好きですか。(得意ですか。)	54%	46%
②	少ないグループ(2~4人)の中で、自分の考えや感想を伝えたり聞いたりすることは好きですか。(得意ですか。)	70%	30%
③	iPad(スクールタクトなど)を使って、友達に自分の考えや感想を交流することは好きですか。(得意ですか。)	68%	32%
④	他の学年と交流して、自分の考えや感想を交流することは好きですか。	53%	47%

【改善に向けて】

以上の結果から、本校の課題として、「学級全体への表現活動」や「他学年への表現活動」に対する苦手意識は、学年が上がるにつれ、高まっていることが分かる。これは、成長段階として羞恥心の芽生えや間違えを恐れてしまう等の内面的な要因が考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の一環で、対面での対話の時間などを制限せざるを得ないことも要因として考えられる。

一方で、ICT機器(タブレット端末)を活用して、学級に発信することは学年問わず、比較的肯定的な意識の児童が多い。これは、昨年度からタブレッ



ト端末が導入され、継続的に活用してきた成果だと言える。高学年ともなると、Microsoft の word や power point、スクールタクトのコメント機能を使い、考えを伝え合ったり文章の推敲をし合ったりすることでもできている。学級全体への表現活動は、ICT 機器を活用して文章や考えを練り上げた上で、発信する機会を増やすことで、改善できると考えられる。

また、他学年への表現活動については、本校の特色ある教育活動である「出張スピーチ」や「たてわり班活動」が再開され、表現する機会が増えたことで改善すると考えられる。

